

札幌市スポーツ施設配置活用実施方針（案）について寄せられたご意見と札幌市の考え方

■意見募集期間

令和3年（2021年）3月11日（木）～4月9日（金）

■意見提出方法

郵送、FAX、電子メール、持参

■資料の配布、閲覧場所

- ・スポーツ局スポーツ部施設計画担当課（北2西1 ORE札幌ビル9階）
- ・札幌市役所本庁舎2階 市政刊行物コーナー
- ・各区役所 総務企画課広聴係
- ・各まちづくりセンター
- ・札幌市内の市有体育施設
- ・札幌市ホームページ

■意見提出者数、意見数

- ・意見提出者数：21人
- ・意見数：43件

■意見の内訳

- ・年代別内訳

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
人数	0	1	1	4	4	7	2	2
件数	0	1	5	4	8	18	3	4

- ・居住地別内訳

	市内										市外	不明
	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区		
人数	8	1	1	1	2	2	0	2	1	1	1	1
件数	15	2	1	2	2	6	0	8	1	3	1	2

- ・提出方法別内訳

	郵送	FAX	電子メール	持参
人数	3	5	13	0
件数	5	15	23	0

■意見の概要と札幌市の考え方

・序章「方針の策定にあたって」

No.	意見の概要	札幌市の考え方
1	「体力に応じたスポーツ活動」とはどのような内容か。北海道の健康寿命は全国平均より低いが、リハビリや健康運動等がセーフティーネットと考える。その時どのようなスポーツを提案しようと考えているのか。	体力に応じたスポーツ活動について、例えばウォーキングなどは、幅広い世代の方がそれぞれの体力に応じて気軽に行うことができ、健康寿命延伸にもつながるものとして期待されます。札幌市では、こうしたスポーツの魅力発信などに取り組んでいます。
2	冬季五輪は前回1972年の時と比べ競技種目数が激増し、開催費が掛かり過ぎる。温暖化による雪不足や感染症等の蔓延により開催中止や無観客となった場合、首都圏の10分の1の経済規模でしかない札幌圏は大打撃を受け、市民への重い負担を強いる事に成る。冬季五輪の招致は断念すべき。 【関連意見4件】	国際オリンピック委員会（IOC）は、開催地に対しコンパクトな大会を実現することにより、可能な限り経費を縮減するよう求めている。札幌市においても、既存施設を最大限活用し、大会開催のための新たな施設は造りません。 また、ご指摘いただきました雪不足や感染症の蔓延などの不測の事態に臨機応変に対応するため、東京2020大会での取組状況や他の国際大会での準備状況を踏まえ、2030年冬季オリンピック・パラリンピック大会計画を検討してまいります。
3	冬季五輪は2030年ではなく2034年の招致を目指すべき。「新幹線・新函館北斗―札幌間」の開業は2031年3月。札幌中心部の再開発も、新幹線札幌延伸を目指しており、それら社会的生産基盤が整ってから五輪を催すほうが「おもてなし」の精神にも叶う。	現在札幌では、1972年のオリンピックを契機として整備された社会基盤や競技施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えています。 また、超高齢社会の到来に対応した、全ての人にやさしいまちづくりも求められています。 冬季オリンピック・パラリンピックの開催には、社会基盤や競技施設の更新のほか、バリアフリーの促進といったまちのリニューアルを加速していく効果があるものと考えており、2030年大会の招致を目指しているところです。

・第1章「基本理念と目標」

No.	意見の概要	札幌市の考え方
4	過去に前例のない超高齢社会、少子化が進む中、新しい施設の発想・新しい運動が必要だが、多様性のあるスポーツ環境の実現をどのように考えているか。	本方針では、特色のあるスポーツ施設の整備に加え、学校・公園や民間施設など様々な施設を活用し、それぞれの施設機能に応じた役割を担っていくことで、市全体として、多様性の確保と施設の効率化を図り、人口減少・超高齢社会が進む中でも持続可能な施設環境を整えていくこととしています。 また、時代の変化に伴う新たなニーズ等について、対応の必要性を検討のうえ、確保していくこととしています。
5	「多様性のあるスポーツ環境の実現」に向けては、市所管スポーツ施設の分業化特色化が必要。高齢者の健康づくり・リハビリや、コロナ禍でより安心安全を望む方に少人数でのスポーツ環境を提供するなど、施設毎に違うメニューを作成し、特色づくりを行うことが必要ではないか。	市所管スポーツ施設ではこれまでも、施設の特性を活かし、施設ごとに工夫をしながら教室等を実施しており、今後も施設ごとに特色あるメニューづくりに努めていきます。 施設機能については、施設毎に特色ある整備を進めることで、市全体として多様性のあるスポーツ環境を確保していくこととしています。
6	バリアフリーなど弱者目線での検討をお願いしたい。プール槽にスロープを設置することで、障がい者なども自由に入水退水ができ、不便さから解放される。施設の機能向上とは、リハビリにも対応できるようにすることか。水中運動は、脳梗塞者の身体機能や、腰痛、むち打ち症等の改善なども期待される。	本方針14～15ページの「機能向上」とは、利便性の高い場所への立地や利用時間の拡大など、効率的・効果的な施設整備・運営により、各施設の整備効果を高めることを意味しています。 なお、バリアフリーなどについては、多様性のあるスポーツ施設環境の実現に向けて、本方針32ページ「取組4 共生社会を実現するスポーツ環境の充実」に基づき検討していきます。
7	多目的に利用できるスポーツ施設があることでスポーツ人口が増えるのではないかと。スポーツを通して得られる学びをもっと沢山の子どもたちが体験し、スポーツが社会に還元・貢献できる可能性を広げていける場が必要。	人口減少や超高齢社会が進展していくなかで、誰もがスポーツに親しめる機会を確保していくためには、効率的・効果的な施設配置を進めていくことが必要となることから、複合化や多目的化などにより、多機能な施設整備を検討することとしています。 また、本方針31ページでは、子ども達がスポーツに参画する機会確保にあたり、市所管スポーツ施設をスポーツクラブなどが活用できる仕組みを検討することとしています。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
8	多目的に利用できるスポーツ施設があることで、現在、限られている昼間のスクール実施場所になれば、スポーツ選手がセカンドキャリア（指導者）を考えるきっかけにもなる。	オリンピック経験者などのアスリートが加入する人材バンクが複数組織されており、現在、こうした団体と連携し、運動部活動やスポーツ体験会等に指導者を派遣しております。今後もこれらの団体との連携を継続していきたいと考えております。 また、市所管スポーツ施設においても、トップアスリートが講師となる教室等を行っており、今後もスポーツ選手との更なる連携に取り組んでいきます。

・第2章「基本的な取組」

No.	意見の概要	札幌市の考え方
9	スポーツ施設の再編、再配置に賛成。ただし、実行にあたっては、地域の人口増減の状況や、市民意見、環境、交通利便性等を十分に考慮して頂きたい。	スポーツ施設の再編・再配置にあたっては、地域の状況や市民意見、利用者の利便性確保など、様々な観点から検討を行っていきます。
10	住んでいる場所によって、不公平が大きいので是正してほしい。市民が平等に使えるよう施設配置を考えてほしい。	スポーツ施設の再編・再配置にあたっては、主要な地下鉄駅周辺等の交通利便性の高い場所に配置するなど、利用者の利便性確保を念頭に検討していきます。
11	芸術やスポーツの施設は都心の近くに置くべき。 ①東区苗穂に在る『北海道旅客鉄道』の工場を移転し『札幌ドーム』に代わる大型スポーツ施設を集約、②市街地の大規模公園にアマチュアの地方大会にも使える野球場（硬式）や蹴球場を置くのが理想。「モエレ沼公園内野球場の改修」には賛成しかねる。平日に仕事を終えた後、その足で通う事が大方の市民にとっては無理。	本方針では、効率的・効果的な施設環境の実現に向け、交通利便性の高い場所などへの施設の配置・集約を進めることとし、土地利用の再編が伴うようなまちづくりの動きと連携して検討を行うこととしています。なお、屋外競技施設については、施設が大規模であることや駐車場の確保などから、広大な敷地が必要となり、また、観客席を設ける場合は、騒音や道路交通など周辺への影響を考慮することも必要です。モエレ沼公園の野球場改修（硬式対応）については、観客席など円山球場等を補完する機能を備えることが必要と考えており、様々な観点から検討した結果、他に適した場所がないことから、当公園の改修を進めていくこととしています。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
12	児童会館や区民センターのホールなど多少狭くてもスポーツを行える施設の活用・運用の見直しを考えてほしい。	児童会館の多目的ホールや区民センターなどは、現在も施設本来の目的に支障のない範囲でスポーツの場として利用可能ですが、本方針25ページ「②コミュニティ施設」のとおり、今後、これら施設のさらなる有効活用に向けた方法について、検討を進めていきます。
13	子どもの競技力向上は必要ない。小中高校生はメダル獲得マシンでは無い。 【関連意見2件】	スポーツとは、一部の競技選手や運動に自信のある人だけのものではなく、それぞれの適性や志向に応じて、自由に楽しむことができる、みんなのものです。 そのなかで、トップアスリートになることを目指している子ども達をサポートすることも必要と考えております。
14	障がい者や高齢者と、学生や若者とでは、利用場所の環境が異なるのではないか。新型コロナウイルス対策など衛生的な分野も視野に入れた環境設定、用途に合わせた環境設定が求められるのではないか。	スポーツ施設の新設・更新や保全改修の際には、バリアフリー対策やユニバーサルデザインの導入をはじめ、すべての人が分け隔てなく楽しむことができるスポーツ環境の充実を図ってまいります。 また、新型コロナウイルス対策については、感染状況を鑑み、利用人数制限などの必要な対策を講じてまいります。
15	冷涼な札幌で、様々な競技のプロ・大学・高校等の夏合宿を招致。①スポーツ施設の貸し切りを保証。②市内の宿泊施設を確保。③東京五輪のマラソンコースを体験していただく。④スキージャンプの恐怖感を体験していただく など。	スポーツ合宿の実施は、市民がスポーツへの関心を高める機会となるとともに、札幌の魅力発信などに大きく寄与するものと考えております。 企業や大学向けの合宿に係る需要調査の結果を基に、合宿誘致について検討してまいります。 なお、本方針34ページ「取組5 経済・まちの活性化に貢献するスポーツ環境の充実」では、こうしたスポーツが持つ力を発揮できる、施設の機能維持、強化を進めていくこととしています。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
16	道外の中学校・高等学校の札幌市内修学旅行生にカーリング体験を企画・発信し、実際に体験していただくことで、カーリング競技の認知度・関心度を高める。	本市では札幌カーリング協会と連携し、カーリング競技の普及に取り組んでおります。 道外の修学旅行生に向けたカーリング体験会の実施については、市有カーリング施設の定員等の諸課題を踏まえ、頂いたご意見を参考に検討いたします。

・第3章「各施設における取組」

No.	意見の概要	札幌市の考え方
17	月寒ラグビー場は、本来の多目的競技場として、ラグビー以外の屋外球技（サッカー、アメリカンフットボール、ラクロス等）で使えるようにすべき。ラグビー専用競技場のままとするのであれば、近年、競技人口の増加が著しいラクロス、フラグフットボール及びアメリカンフットボールの試合が行える競技場（観客席あり、人工芝）を整備すべき。 【関連意見5件】	月寒ラグビー場については、競技の特性上、芝生の消耗が激しいことから、芝生養生期間確保のためラグビー専用施設として運用を行っているところですが、今後、市民ニーズを踏まえながら、施設管理に支障のない範囲での多目的利用の可能性を検討してまいります。
18	月寒ラグビー場は、改修し存続させる。改修にあたっては管理のしやすい人工芝の導入を検討すべき。	月寒ラグビー場の改修については、施設の更新の際に、他競技のニーズなどを踏まえ、多目的化も含め必要な機能について検討してまいります。
19	冬季期間にフルピッチで練習できるサッカー場があると、強化に繋がる。北海道のサッカーの向上を考えると必須。	施設の整備・維持にあたっては、経営資源が限られたなか、必要性などを踏まえ検討を行います。いただいたご意見については、今後の検討の参考にさせていただきます。
20	厚別競技場サブグラウンドの夜間使用が出来る、グラウンド確保に困っているクラブが助かる。	厚別公園補助競技場の夜間使用については、現在、指定管理者において簡易な夜間照明を設置しており、19時30分までの利用が可能ですが、今後も利用者のニーズを踏まえ検討してまいります。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
21	気軽に使えるサッカー場（ラグビー場）は少ない。少年サッカーやフットサル程度の小さい物でも良いので、大きな公園で空いている場所等に作れませんか？	現在、東雁来公園を除く、大きな公園のサッカー場（モエレ沼公園、前田森林公園等）の利用率は土日で概ね50%前後となっていることから、新たな施設整備の予定はありません。 なお、地域の公園にある少年野球場（多目的広場）は、サッカーの利用も可能です。他に利用される方と譲り合ってご利用ください。
22	藤野リ्यूージュコースは、老朽化が著しく再整備が必要。札幌市は2030年の冬期オリンピックに立候補を表明し、ソリ競技は長野の利用を計画しているが、長野はオリンピック終了後のコース存続が不透明。この様なことから、オリンピック開催都市になる札幌市として、藤野リ्यूージュコースをソリ競技を開催できるコースとして再整備し、ソリ競技を通して、青少年の健全なる育成を図り、冬季スポーツの発展を図ることを強く要望する。 【関連意見4件】	2030冬季オリンピック・パラリンピック大会計画におけるソリ競技会場は、IOCより既存施設の活用を推奨されたことなどを受けて、国内で唯一国際大会の開催経験がある長野スパイラルを使用する予定としています。 現状の藤野リ्यूージュコースについては、毎年継続して経年劣化等による不具合箇所の修繕を実施しており、今後に必要な機能を維持してまいります。
23	藤野リ्यूージュコースの再整備に向けて、維持管理については、競技団体とも協議を進め、いかに経費を軽減できるかをしっかりと研究すべき。	
24	藤野リ्यूージュコースは、スキー場と併設なので専用の職員は不要であり、コースの除雪などは、選手が協同して手伝え、再整備をしたとしても維持管理費が低額で済み市民の理解も得られると思う。	
25	藤野リ्यूージュコースについて、長野のように人工凍結でないコースであれば、再整備をしたとしても建設費も維持費も長野の1/10位に抑えられるのではないかと。また、国のナショナルトレーニングセンターに認定されれば、補助を受けられるのではないかと。	
26	近年地球温暖化により、氷と雪を活用し造成するリ्यूージュ競技場はコース造成と維持管理が難しくなっているため、藤野リ्यूージュコースの人工凍結コースへの改修を検討してはどうか。オリンピックで使用するフルスペックの施設ではなく、短距離（600m）のコースであれば建設費等を抑えられ、ソリ競技の選手強化の足掛かりとして全国の選手の利用が可能となる。一般者が体験できる機会を設けることで収益も得られる。	

No.	意見の概要	札幌市の考え方
27	札幌ドームの使用料が高すぎる。特にアマチュアスポーツ団体や市民団体が利用したくても使用できない。札幌市は、もっとガバナンスを発揮して、札幌ドーム㈱の経費を削減し、使用料の軽減を図り、プロのみならず特にアマチュア団体や市民団体の利活用の拡大につなげてほしい。 【関連意見 3 件】	札幌ドームは、内外の優れたスポーツ、展示会その他催物の開催の場を提供すること等により、スポーツの普及振興及び市民文化の向上並びに地域経済の活性化のために設置した施設です。 アマチュア利用については、これまでも市民が札幌ドームを気軽に利用できるよう指定管理者と連携をしながら低廉な金額で利用できる取組を行っており、今後も、市民利用促進やにぎわい創出につながる取組を検討してまいります。
28	札幌ドームは、今後、プロ野球のフランチャイズでなくなれば、アマチュアスポーツ団体の利用拡大を目指すべき。そのためには、申し込みの公平性（現状ではプロ興行等が優先）を図るとともに使用料や付帯費用を軽減し、アマチュアスポーツ団体が全国的な大会等を誘致したり、有観客試合を開催しやすいようにすべき。	
29	経過年数が古い美香保公園野球場、中島公園庭球場、宮の森ジャンプ競技場及び藤野リ्यूージュ競技場は今後10年の対策に入れるべきではないか。	

・特定の部分に該当しないもの

No.	意見の概要	札幌市の考え方
30	「スポーツ」とは競技スポーツだけを考えているのか。競技スポーツではない誰にでもできる運動は、スポーツ施設から排除なのか、それとも共存できるのか？	スポーツとは、競技だけではなく、散歩やジョギングなどの軽い運動、レクリエーション活動なども含むものです。こうした幅広いスポーツ活動のなかで、誰もができる運動であっても、スポーツ施設でなければ実施できない場合もあると考えられ、排除するものではありません。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
31	市内小中学校の授業で積極的にスポーツ施設を活用してもらうべき。例えば、札幌ドームのサッカー場設営に係る裏方の緻密で正確かつ素早い作業の様子を子供たちに見学してもらう。	施設見学については、キャリア教育の一環として現地学習等で活用することが考えられます。また、地域の資源を有効に活用する観点から、各学校でスポーツ施設を利用した学習計画を位置付けることも有効であると考えます。スポーツ施設としても授業における施設見学等の際には、学校と連携しながら内容等を検討してまいります。
32	体育館のファミリー開放という時間帯で、色々種目があるのは良いのかもしれないが、一つ一つの競技スペースがせまく、その中で幅広い年齢層の方々がプレーしていた。“密になる時もある”のもあるが、接触による怪我なども不安。	スポーツ施設における一般開放については、新型コロナウイルス感染症対策として、利用人数の制限等を行っており、今後も、感染状況に応じた必要な対策を講じてまいります。
33	基本理念の説明に「市民の誰もが、それぞれの適性などの違いに応じてスポーツに参画できる施設環境を目指す」とある。化学物質過敏症の市民が、周りの利用者が使用している香料製品によって吐き気、呼吸苦をおこしてしまい、スポーツに参画できずに苦しんでいるため、利用時間及び利用諸室を物理的に分けてほしい。	香料などのにおいにより様々な症状に苦しんでいる方がいるという事象については、札幌市ホームページや施設のポスター掲示等を通じて「香りのエチケット」に関する普及啓発を行っているところです。今後も国や他自治体の動向などを注視してまいります。
34	現在、小中学生の施設利用料は無料だが、健全な施設運営等を考えると有料にすべき。また、小中学生は、本来の施設目的ではないゲーム機やスマホによる長時間利用や、陸上競技場等では多くの小中学生が高校生以上の練習の妨げになっている場面を度々見かける。この状況の改善に向けても、小中学生を有料にすべき。	札幌市では、若い世代のスポーツ実施率を高めていくことが課題と認識しており、体育館やプールなどの利用料金を無料としています。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
35	日ハムの市外への流出はスポーツ局の責任であり、冬季五輪の招致も絶望的なので、職員数を半減して福祉部門に配置転換すべき。	北海道日本ハムファイターズの本拠地移転は、人工芝の野球場でサッカー場でもある札幌ドームと、天然芝の野球専用球場を求める球団の、それぞれの施設の役割・機能の違いによるものと認識しております。また、スポーツ局の職員体制については、適切な体制となるよう努めてまいります。

- ・その他 ※参考意見として、趣旨のみ掲載します。

No.	意見の概要
36	学校のプールを廃止し市営プールで授業を行うのは良い。夏の短い間だけしか使えないプールを学校単位につくるのは、とても無駄。
37	令和7年の新中央区複合庁舎完成後、現中央区民センター跡地が気軽に市民活動ができる施設になることを希望する。

■実施方針（案）の修正

- ・ No.30のご意見を踏まえ、巻頭に「スポーツ」の定義を挿入しました。